

CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会
宣教ニュース

N.109 - 2018年1月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

ドン・ボスコのサレジオ会員への総長による宣教への呼びかけ



聖フランシスコ・サレジオ修道会 総本部

Via Marsala, 42 - 00185 Roma

総長

Prot. 17/0440

2017年12月8日 ローマ

親愛なる兄弟会員の皆さん、兄弟的な親しみをこめ、あいさつを送ります。

これを読まれるころには昨年になりますが、今日2017年12月8日、私たちが暮らすローマの「イエスのみ心」の家から、大聖堂を目の前に見ながら、この手紙を皆さんにあてて書いています。昨年と同じ意向をもって書いています。世界中のすべての管区で、そして、私たちの宣教の召命を特別な形で生きるよう主に呼ばれていると感じるすべての会員に向けて、「**すべての人へ ad gentes**」**遣わされる宣教の呼びかけ**を響かせるために、今日は非常に意義深い日です。私たちは皆、若者に遣わされる宣教師です。しかし主は確かに、会の始まりのときから、たいへん親密な特別な仕方で、多くの会員にこの呼びかけを感じさせてくれました。より大きな必要性のあるところ、あるいは私たちがまだ行っていない、人々が私たちが待っているところで、福音とサレジオの使命が若者に届くために。

2017年中、主はトム・ウズナリル神父が私たちのもとに戻るという恵みをくださいました。イエメンの宣教師であったトム神父は、深い霊性、宣教的、使徒的な豊かな内面性の大きいなるあかしをしてくれました。トム神父のこの献身と犠牲は、必ず豊かな実りをもたらすでしょう。

今日、私の宣教の呼びかけは、惜しめない応答を待ちながら、全世界のすべての管区、サレジオの現場にいる多くの会員の心の中にも響かせたいと願うものです。ドン・ボスコは多くの近いサレジオ会員を初期の宣教派遣で送り出しました。私は**ドン・ボスコの名によって**、主が呼び起こされたこの望みを心に感じるすべての会員に向け、熱い招きを送ります。

- 毎年、世界中に派遣される20名ほどの宣教師のすばらしい応答を私たちは目の当たりにします。しかし、さらに多くの人々のもとへ、さらに多くのところに、子どもと若者への福音と教育をもたらすため、さらに大きな人数を期待できると私は心から信頼しています。
- 使徒的働き手の数は、会の中で、場所によってまちまちです。多くの召命に恵まれた管区や国がある一方で、非常な貧しさを経験しているところもあります。兄弟愛によって、そして世界に広がる一つの会のうちに皆ドン・ボスコのサレジオ会員であり、自分の国、自分に管区のためだけの存在ではないという気持ちから、私たちは最も必要とされるところに手を差し伸べることができるのです。
- 今も私たちが待つ青少年、若者がいます。その中には最も貧しく、見捨てられ、最も危険にさらされた子ども・若者たちがいます。ラテンアメリカのアマゾンやアンデスの宣教地、特に私たちが待つ先住民族の人々；国々の境界に身を寄せている人々、例えばウガンダなどの難民キャンプにいる人々は私たちが待っています。東ヨーロッパも私たちが働くために開かれています。マレーシアとガンビアには間もなく私たちの働く場が出来ます。私たちがすでにいるほかの多くの国々から、真に宣教地といえるほかの所へ出向いて行くよう、私たちは呼ばれています。



親愛なる兄弟の皆さん、こういったすべてのことから、寛大であるようにと切にお願いします。まず、主のこの明白な呼びかけを感じる会員の寛大さ、惜しみなさです。管区、院長の寛大さ、特に管区長の寛大さです。会員、特に大いなる理想を抱く若いサレジオ会員の宣教の望みを埋もれさせることのないように。私たちは自分たちの起源を忘れることも、カリスマにおけるアイデンティティーを忘れることもできません。会憲が思い起こさせるように：「まだ福音化されていない国民は、ドン・ボスコの強い関心と使徒的情熱の特別な対象であった。……宣教活動はサレジオ会の本質的な特徴の一つだからである」(会憲第30条)。

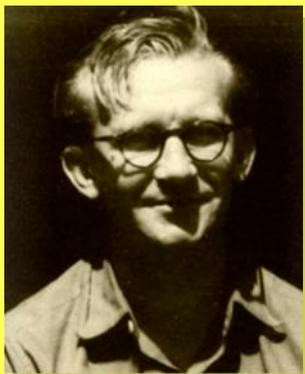
主が私たちの寛大さを必ず祝福してくださいと、私は信じて疑いません。

宣教師となる手続きについてここに再び紹介します。総長がこの望みを表明する会員から電話、手紙、eメールを受け取ったなら、宣教部門は、その会員および管区長との対話のうちに、落ち着いた、深い識別を始め、たどられている歩みを随時、総長に報告します。多くの場合、識別によって候補者の適性が引き出されます。時には適性が見られないこともあります。しかし、この歩みは、常に本人および宣教の使命の善益を求めものです。

会員の皆さん、これが私の呼びかけです、そして全会をあげてこのことのために祈るよう皆さんを招きます。福音をまだ受け取っていない多くの人があります。友人、兄弟、父を必要とする多くの若者がいます。サレジオ会員はその若者たちと出会うため出かけて行き、友人、兄、父となるのです。私たちは若者と生活を分かち合い、人生に備えるように助け、常に若者の善益を求めながら「耳を傾けること、共に歩むこと」を彼らに差し出すでしょう(ストレンナ2018)。

キリスト者の助け聖マリアがこの寛大さを祝福してくださいますように、そして私たちがイエスのまことの宣教する弟子となるようドン・ボスコが共に歩んでくださいますように。

親しさをこめて、



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエルルイジ・カメローニ神父

福者ティトゥス・ゼマン(1915 - 1969)、召命のための殉教者。ゼマン神父はある意味で、識別の過程における基本的な歩みを具現しています。若者たちを秘かに国外へ移送することによって、召命を見だし実現する機会を彼らに差し出したのです。神のみ言葉に照らされたゼマン神父の信仰は、自国における迫害の時代、若い会員に同伴する道を選んだ、その選択の源泉でした。ゼマン神父は、召命の賜物を神の恵みとして寛大な心で受け入れる旅路において、若者たちの同伴者となりました。



サレジオ会の宣教の意向

アジアのサレジオ会員のために

アジアの国々で、キリスト者またほかの少数派の宗教の人々が、完全な自由のうちに信仰を生きることができますように。

アジアは文化と宗教の豊かなモザイクです。この多様性は、必ずしもすべての地域で、寛容と自由のうちに平和に共存する道を見だしていません。私たちには尊い使命があります - すべての人の侵すべからざる信条を尊重するよう若者を教育すること、そして、穏やかさとゆるぎなさをもって、主イエスへの信仰をあかする勇気を持つよう若いキリスト者を助けることです。

